

「誇れる街 苫小牧」 快適都市への挑戦に 誠心誠意取り組みます



いわくら ひろふみ
苫小牧市長 岩倉 博文

去る6月27日に行われました市長選挙において、多くの市民の皆さんの力強いご支持により、苫小牧市長として2期目の市政を担うこととなりました。

このたびの選挙では、市民の皆さんの市政に寄せる熱き期待に、改めて職責の重さを実感するとともに、ふるさと苫小牧のために、全力を注ぎまわすことに決意をいたしました。

私は今年度の市政方針の中で、「安定と躍動の市政」を活動テーマに掲げました。それは、昨今の景気の低迷や、雇用不安の中でも、苫小牧の持っている大きな可能性や将来性を伸ばし、その上で将来に負の遺産を残さず、健全な財政基盤を確立させていくことであり、ます。

そのためには行財政改革を進め、市役所のスリム化や効率化が大きい

な目標になります。官と民との機能分担を行い、安定的な財政の基盤を確立し、市政運営を行うことが、私に課せられた最大の使命と考えております。

これからは市民の幸せのために何をしなければならぬかを考え、行動することを職員全体の共通認識とし、これまでの概念を新しい感覚で見直して、「誇れる街 苫小牧」へ、快適都市への挑戦に誠心誠意取り組みたいと思います。

現在の苫小牧市はポテンシャルが高く、恵まれた立地条件のまちではありますが、これから先を見据えると、決して前途洋々ではありません。自治体として生き残るための創意と工夫が必要な時代、何を優先的に取り組むかを決断し、まちづくりに積極果敢に挑戦していかねばと考えると、2期目に臨むにあたり1期目と

同じ5つの柱をベースに30項目の公約を掲げ、さらに具体的施策として65施策を市民の皆さんとの約束としました。これらの公約は、市の施策として一つ一つ着実に実施に向けて取り組んでまいります。今後とも私自身が先頭に立ち、企業誘致やプロジェクトの誘致にこれまで以上に精力的に取り組むとともに、「持続可能なまちづくり」という大きなテーマにもしっかりと腰を据え、市を取り巻くさまざまな情報や国の動向をも踏まえ、まちづくりの方向性を見極めて市民の皆さんと一緒に進めていくことを固くお誓いします。

市民の皆さんの信託に応えるため、心血を注ぎ職責を果たす覚悟でございます。皆さんのなお一層のご支援とご協力、そして、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

市長就任の記者会見録は <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/mayor/> に掲載していますのでご覧ください

市長選挙結果

6月27日に市内42カ所の投票所で苫小牧市長選挙が行われました。即日開票の結果は次のとおりです。

選挙結果

● 当日の有権者数	139,719人	当 岩倉 博文	46,688票
● 投票者数	76,211人	沖田 清志	28,668票
● 投票率	54.55%		(敬称略)



◀ 6月28日に行われた当選証書授与式の様子

Rediscovering TOMAKOMAI 苫小牧再発見!!

第23回

とまこまい港まつりの歴史

苫小牧の夏のビックイベントとして、「とまこまい港まつり」が毎年ありますが、この港まつりには長い歴史があることを存じでしょうか。

◀ 昭和27(1952)年
第3回観光まつりの様子



この観光まつりとしての行き詰まりとともに、昭和26年に苫小牧工業港起工式が行われたこともあり、名称を「港まつり」と改め、イメージ

港まつりの歴史は、現在とは名称が異なる昭和25年9月の「観光まつり」の開催から始まりました。当時は市民全体のレクリエーションとすることや苫小牧市の経済圏を近隣町村に拡大することを目的にシャッソン発表会や花火大会などが行われ、大いに盛り上がりを見せました。しかし、開催を重ねるにつれ、毎年の行事内容や開催意義からみると、期待した成果はあげられず、観光まつりの本質、苫小牧の持つ観光価値などを再認識しなければならなくなりました。

チェンジをして昭和31年に再出発することになりました。

第1回港まつりは、仮設舞台を東小学校横広場に設け、船団パレードなどの新しい催しもありましたが、港のない港まつりであり、観光まつりの延長的な感じが強くありました。

港まつりが本場の意味での港まつりとなったのは、昭和38年の第8回であり、この年には苫小牧港の開港記念式典がまつり開催期間中に行われ、当時の市民は港まつりの実感を始めて味わいました。

その後、港まつりは年々本質や内容が充実し、現在では市民おどりなども取り入れ、市民全体のレクリエーション的な役割を果たすまでになりました。

今年も港まつりが開催されます。苫小牧を特徴づけるこのまつりで、まちの活力を感じるとともに、夏を満喫してみたいかがででしょうか。

現在の港まつり(第54回) ▶
市民おどりの様子

◀ 昭和31(1956)年
第1回港まつりの様子



まちなか再生総合プロジェクト! CAP

Central Tomakomai Active Project 詳細 まちづくり推進課 ☎32-6054

市では2月に「まちなか再生総合プロジェクト素案(CAP:キャップ)」を発表しました! このプロジェクトの概要についてシリーズでお知らせします!

第4回 CAPの事業について(Part2)

まちこ ねえ博士!今回はにぎわいの創出についての話をしてくれるんですね?

博士 そうだね。前は住む人を増やして暮らしやすいまちなかを目指すというお話をしたよね。そして、今回はにぎわいを取り戻すための事業についてお話をするんだね。

まちこ では、さっそく具体的に何をするのか教えてくださいませんか?

博士 まず1つ目は駅前の図書館カフェだよ。ここでは便利で手軽な読書スポットとして、お茶を飲みながら読書を楽しんだり、さらには周辺のまちの楽しい観光情報を知ることができるんだ!

まちこ カフェや観光の機能も備わっているなんて今までにない図書館のスタイルね!

博士 そう!そして2つ目は足湯付きまちなか交流館だよ。この施設では足湯が楽しめたり、地域の人々が作った物を味わえるんだ。さらにはお年寄りのための介護予防の相談窓口も置くんだ。

まちこ へ~足湯かぁ!完成が待ち遠しいわね。どちらの事業も人をまちなかに呼び込んで、にぎわいをつくろうという考えなのね!

博士 そのとおり!通勤・通学者や観光客、地域住民をまちなかに誘導するための拠点をつくるんだ!次回はとっておきの事業についてお話をしようね。

まちこ これだけでも楽しみなのに、まだとっておきがあるんですね!

今回はCAPのとっておきの事業についてです!